

岐阜農林事務所の普及活動状況

令和2年2月25日現在

今月の重点活動

■スマート農業 普及活動等成果発表会にてスマート農業の成果発表

2月13日シンクタンク庁舎にて、令和元年度岐阜地域普及活動等成果発表会が開催された。この発表会は岐阜農林事務所と岐阜地域農業改良普及事業推進協議会の主催によるもので、今年度の普及活動成果を農業者や関係機関に発表し、今後の農業振興に資する目的で開催されている。

当日は管内の農業者、市町関係者、JA営農指導員など約70名の出席があった。普及活動事例発表では「スマート農業を活用した超低コスト輸出用米生産実証の取組み」と題して、(農)巢南営農組合で実施しているスマート農業技術を駆使した水田農業について、作業時間や実用性に関する調査結果を報告した。

今後も農業普及課では、様々な場面を通じてスマート農業の成果を発表し、普及を進める。



【成果発表会の様子】

(地域支援第三係・松本 政行)

多様な担い手づくり

■担い手 農業次世代人材投資資金の現地確認を実施

2月5日～18日にかけて、岐阜市内14名を対象に農業次世代人材投資資金の現地確認が行われ、就農状況や目標達成状況などについて、農業普及課並びに関係機関にて聞き取りなどを実施した。

今回、調査した対象者からは、徐々に所得も増えてきており、当初の計画の達成できているとの意見がある一方、作業に追われ家族も含め疲れて余裕がないなどの課題も聞き取ることが出来た。

今後も、新規就農者が見込まれることから、農業普及課では関係機関で課題を共有し、経営安定に向け支援に取り組む。



【現地での確認状況】

(園芸産地支援第二係・三和 浩一)

売れるブランドづくり

■水稲 多収性品種栽培研修会を開催

2月12日、JAぎふアグリパークにおいて、水稲多収性品種(にじのきらめき・ほしじるし)の栽培研修会が開催され、水田農業の担い手、JAぎふ担当者など約90名が参加した。

研修会では、農業普及課より「にじのきらめき」「ほしじるし」の特性や過去3カ年調査結果並びに、令和2年の栽培暦について説明を行った。

令和2年は「にじのきらめき」が大幅に増加し、100haを超える見込みで、多収性品種に対する積極的な取り組み姿勢が伺える。

農業普及課では、引き続き2年度も実証ほの調査を行うとともに、多収性水稲品種等の構成について検討を行い、水稲の安定多収生産と低コスト化を図っていく。(地域支援第一係・小島 康平)



【栽培研修会の様子】

■小麦 生育調査を実施

管内では、農業法人や大規模農家が転作水田を利用し、約425haの小麦を栽培している。

農業普及課では小麦の発芽以降、定期的な生育調査を行って、肥培管理指導のための基礎資料としており、穂肥施用を前にした2月中旬には、管内に設置している54地点の草丈・茎数・葉色を測定した。

この結果、暖冬の影響を受けて、小麦は極めて旺盛な生育をしており、出穂も早まるものと予想されたため、早めの穂肥施用を指導



【生育調査の様子】

することとなった。

今後、農業普及課では生育調査を継続して行い令和2年産小麦の作柄を把握するとともに収穫物の品質検査を行い、良質小麦の安定生産に繋げてゆく。
(地域支援第三係・松本 政行)

■GAP 岐阜市園芸振興会GAP運営委員会で次年度方針を協議

2月20日、岐阜市内のホテルにおいて、岐阜市園芸振興会のGAP運営委員会が開催された。

GAP運営委員会は、本年開催の東京オリパラに向けて県GAP確認制度に取り組んできており、オリパラ開催後の取組み方針等について、岐阜市役所、JAぎふ、JA全農岐阜等の関係機関を交え熱心に協議された。

農業普及課もGAP推進に対し、ポスト県GAP確認制度を視野に入れて、更なるステップアップを目指し継続支援していく予定である。

(園芸産地支援第一係・高橋 幸蔵・高井 啓、園芸産地支援第二係・三和 浩一)



【GAP運営委員会】

■アスパラガス 根の貯蔵養分診断

2月5日～12日、岐阜地域のアスパラガス生産者ほ場において、貯蔵養分の測定のため、アスパラガスの根の糖度測定を行った。

現地にて、1株あたり根を2本、1ほ場あたり6株12本を測定し、最大値、最小値を除く10測定値の平均をほ場全体の値として貯蔵養分の栄養診断結果を基に、春芽収穫期間、立茎開始時期の提案を行った。

今後も、アスパラガスの安定生産に向け、生育データ等を基に栽培管理の指導や情報提供を行う予定である。

(園芸産地支援第一係・栗山 万里奈)



【掘り出した根の糖度測定】

■いちご 糸貫苺技術部会にて昆虫利用など勉強会を開催

2月21日、糸貫苺技術部会にて第1回勉強会が開催された。

最初に、農薬メーカーの担当者より「マルハナバチの適正な使用方法」について説明があり、近年、高設栽培ではマルハナバチの利用が増えていることから、生産者からは昆虫の特性やできる限り長期間使用できる飼養管理についてなど多くの質問があった。

農業普及課からは、本年、部会員ほ場で実証したアブラムシ類の天敵コレマンアブラバチによる防除効果等について、現在までの結果を報告し、併せて現在のイチゴの生育状況や今後の栽培管理のポイントについて説明を行った。

糸貫苺技術部会では、これまでも新技術導入を積極的に行い、定期的に勉強会を開催しており、農業普及課では、今後も技術部会の活動を支援し、部会全体に導入可能な技術の普及を図っていく予定である。
(園芸産地支援第一係・菊井 裕人)



【技術部会での勉強会】

■カキ 「ねおスイート」剪定講習会開催

2月7日に瑞穂市柿振興会、14日に岐阜市かき共販振興会において柿新品種「ねおスイート」を対象とした苗木の剪定講習会・ほ場巡回を開催した。

両地域合わせて、約250本の苗木が導入され、約3年が経過している。山際部ではシカによる食害はみられるものの、おおむね順調な生育を見せている。

講習会では、農業経営課の西垣革新支援専門員より実演が行われ、今後の主枝候補の確保に重点をおいた整枝剪定をするよう説明があった。

農業普及課では、来年度以降の収穫に向けて、新たな品種の特性を踏まえた支援を継続する。

(園芸産地支援第二係・小枝 俊仁)



【苗木の状況を確認】